

ほめ言葉に対する返答について

清 水 由 希

1. はじめに

日本では古くから「謙虚であることが良い」という考えがある。「そのハンカチ、綺麗ですね」とほめられても、「いえ、安物なんです」と受け入れず、謙遜することが良いというのだ。日本語教育の場においても、ほめられたら謙遜すると学習者に教えているのが現状である。(『みんなの日本語初級Ⅱ』P.105)

しかし、実際今日の会話に注目してみると、ほめられた際に「いいえ」と謙遜するのではなく、「有難う」と受け入れる形が少なくないように思われる。実際、先行研究によると、ほめられた際に受け入れ型の返答が一定数報告されたという結果も出ている。

本稿では、日本語母語話者を対象に、ほめられた際の返答について調査を行う。その返答がどのように分類されるのか、またほめられた対象が異なると返答の仕方も変わるのかも同時に調査したい。

2. 先行研究

寺尾(1996)はトーク番組と日常会話からの聞き書き資料を基に調査を行い、結果として日本人は打消しの返答が典型的で規範的な返答であるという意識を持ちつつも、受け入れ型の返答が多いとしている。しかし、資料は完全なる自然会話だけを扱っておらず、またほめる側とほめられる側の関係性などは考慮されていない。

平田(1999)は、年齢、地位、性別の違いによる返答の相違をまとめている。考察として、日本語では慎重深く謙遜するのが礼儀であると信じられているにも関わらず、約3分の1の発話がほめ言葉を受け入れ同意する、もしくは感謝や喜びを表す返答をするとしている。しかし、こちらも資料は自然会話を著者が抽出したものではない。またほめの対象物が明確でないため、対象物とほめの関係性は明らかにされていない。

佐藤(2002)は大学生の自然会話におけるほめをもとに分析している。話者同士の関係や性別なども同時に調査し、またこれまでの研究とは異なり、一度ほめた際に否定の反応が見られた後、もう一度ほめるという調査を行っている。その結果佐藤は、先行研究の手法を踏襲して返答のタイプを数値化してしまうと拒否の返答が圧倒的に多いが、ほめとその返答のやりとりというターンを超えた単位で分析を行った場合には、受諾の場合が増加することが

分かったという結果を出している。しかし、こちらも資料収集の際、会話者の関係性を絞ったり、同じ条件下で行ってはいない。

先行研究では様々な条件下での「ほめ」について調査されているが、関係性、またほめの対象を固定したものは見つかっていない。また、ほめられる側の「家族」についてほめた調査はされておらず、「ほめられる人」と「ほめられる人の家族」での返答の差異は明らかにされていない。

3. ほめの定義

「ほめ」の定義として叶（2014）は先行研究をまとめ、「ほめ」の定義を挙げている。挙げられている「ほめ」の定義をいくつか提示する。

ほめるといふ言語行為は、話し手が聞き手あるいは聞き手の家族やそれに類する者に関して「良い」と認める様々なものに対して、聞き手を心地よくさせることを前提に、明示的あるいは暗示的に、肯定的な評価を与える行為。（小玉1996：61）

「ほめ」には「誰についてほめを行うか」という「ほめの相手」、「何についてほめを行うか」という「ほめの対象」、「ほめをどう実現するか」という「ほめの表現」、「なぜほめを行うか」という「ほめの意図」の四つの要素から「ほめの判断基準」を抽出し、「ほめ」は、話し手が聞き手をこちよくさせることを意図し、聞き手あるいは聞き手に関わりのある人、モノ、ことに関して「良い」と認める様々なものに対して、直接域は間接的に、肯定的な価値があると伝える言語行動である。（金2012：43）

これらをもとに叶は、「ほめ」に関する主な研究では、「目上から目下へ」という関係に限定せずに、「ほめ」を「相手に肯定評価を与える」、「相手への好感情の伝え」と定義していることがわかると説明した。

また、叶はさらに大野（2010）の「ほめ」にかかわる表現の分類を引用している。

a. 評価語による「ほめ」（相手の行為を明示的にほめる）

例）相手が相手自身の部屋をきれいに掃除したことにに対し、「綺麗になったね」と評価する

b. 評価語による言語行動X（表現上は評価語を用いるが、ほめ以外の言語行動として認識）

例）自分の部屋を掃除してくれた相手に「きれいになった」と言う（この場合はほめではなく感謝と認識される）

c. 言語行動 X の表現形式による「ほめ」（言語行動 X の表現形式を用いて暗示的にほめる）
例）漢字を間違えた児童に教師が「違うけれど、その違いのおかげで皆が気を付けられる。ありがとう」と評価する

d. 言語行動 X の表現形式による言語行動（言語行動 X そのもの）
例）自分の部屋を掃除してくれた相手に「ありがとう」と言う（単なる感謝として認識）

これらの先行研究から、「ほめ」は「料理が上手ですね」など明確にほめているものはもちろん、暗示的に相手をほめるという方法が明らかとなった。実際、今回の調査における資料として収集した自然会話の中でも、暗示的に相手をほめている部分が見つかった。この為、今回の調査では「明示的・暗示的に相手に肯定的な評価を伝える言語行動」をほめとして扱う。それにあたって上記の大野の分類に従い、明示的ほめは a を、暗示的ほめは c を基準とし、分類を行う。

4. 調査概要

本調査は、今日のほめられた時の返答について明らかにすることが目的である。

【方法】

4-1 被験者

大学生・またはその学年にあたる者（同等の者同士、かつ親密な関係に限る）

4-2 材料

プロフィールシート（名前、特技、趣味を記入）
親のいずれか、または両方が写っている家族写真

4-3 装置

録音：iphone5 ボイスメモ

文字起こし：ToScribe 音声書き起こしクラウドエディタ

(<http://www.toscribe.toshiba.co.jp/>)

4-4 手続き

会話の分析を行うには、限りなく自然に行われる会話を資料として使用することが望ましい。本調査では、日本語母語話者をほめる側の A、ほめられる側の B の二つのグループに分け、A/B 同士でプロフィールシート及び家族写真をもとに会話してもらい、その会話を録音、文字起こしし資料とする方法をとる。

予め A には「相手（B）をほめてほしい」ことを伝え、主に「Ⅰ：相手の容姿・雰囲気」「Ⅱ：相手の能力・態度」「Ⅲ：相手の家族の容姿・雰囲気」「Ⅳ：相手の家族の能力・態度」

を中心にほめてもらうように指示する。例として、容姿は「可愛い」、雰囲気は「華やか」「優しそう」、能力は「仕事ができる（大企業に勤めている）」「料理上手」、態度は「しっかりしている」など。

また、AがBをほめたところ、Bが肯定的な反応を示さなかった場合、可能ならばもう一度同じ内容でBをほめる「二度ほめ」をしてもらうように指示した。

例)

19A	78	えなんか、[19B] は、美人じゃん。	ほめ
19B	79	美人じゃないわ。	⑤
19A	80	美人、むちゃ美人。	ほめ
19B	81	あざます、嬉しい。	②

→19A-78のほめに対し、「美人ではない」という否定の反応が出たため、もう一度ほめている。この場合19A-80が二度ほめにあたる。

会話上不自然にならないよう、無理にほめなくてもいいことは伝える。Bには特に指示は行わない。

以上のやり方で集めた会話資料から「ほめ」を抽出し、先ほどの「容姿・雰囲気」「能力・態度」「家族の容姿・雰囲気」「家族の能力・態度」にわけ、返答を分類する。

(以下、「Ⅰ：相手の容姿」「Ⅱ：相手の能力」「Ⅲ：家族の容姿」「Ⅳ：家族の能力」と表記する)

5. 分類方法

ほめに対する返答の分類は、寺尾（1996）を基準とし、今回使用した資料において新たに見つかった「ほめへの返答」などを反映させ、修正したものを使用する。

修正を加えた分類表は以下の通りである。また、各分類の例文を今回の資料から選び明記した。

(A) 受け入れ型

A-1：①賛同の発言・態度

(例：「そうなんだよね」「そうだね」「うん」等)

A-2：②感謝・喜び

(例：「有難う」「嬉しい」等)

A-3：③ほめ返し

(例：「Aのほうが上手だよ」等)

A-4：④控えめな同意

(例：「自分じゃよく分からないけど、そうなのかも」等)

(B) 否定型

B-1：⑤不賛成の発言、しぐさ・不利な情報の提示（以下、不賛成の発言と表記）
（例：「いやいやいや」「いやいや、はげてるよ」等）

B-2：⑥的確さへの疑問
（例：「本当？」「そうかな？」等）

B-3：⑦意図への疑い
（例：「どういうこと？」等）

(C) 回避型

C-1：⑧冗談・おどけ・照れ・発言の繰り返し（以下、冗談・おどけと表記）
（例：「可愛い？知ってるー」「恥ずかしい」等）

C-2：⑨情動的コメント・説明
（例：「これ旅行行ったときの写真」等）

C-3：⑩会話を終了させる・話をそらす
（例：「って感じかな」等）

C-4：⑪会話の流れに沿って話がそれる
（例：「資格といえば、とってみたい資格あるんだよね」等）

C-5：⑫シフト（ほかの人・モノのおかげとする）
（例：「友達が器用なおかげ」等）

C-6：⑬あいづち
（例：「うん」「へー」等）

C-7：⑭笑い

本調査では結果を大きく2つに分けて出す。

1. ほめに対する一度目の反応と、二度ほめした際の「受け入れ型」割合の変化
2. ほめに対する反応の「型（パターン）」

これに合わせ、分類方法も大きく2つに分ける。

1つ目は、ほめに対する一度目の反応と、二度ほめした際に受け入れ型がどう変化するかをみるための分類方法である。ほめに対する反応が「受け入れ」「否定」「回避」のどの項目に当てはまるかをみた。例えば「Bって可愛いよね」というほめに対し、「そんなことないよ」という反応がきたら⑤（否定）にカウント、のように行った。また、一度に2つの反応、例えば「ほんと？嬉しい」という反応が来た場合は、「ほんと？」の⑥と、「嬉しい」の②のどちらの要素が強いかを判断し、より要素が強い方を優先させた結果を出した。本論中の会話例には、／（斜線）で要素を区切って載せている。

また、割合を出すには発話数を母数とした。

分類例（1） ②感謝・喜び

19B	14	中三までは選手として泳いでた。	
19A	15	えーすごい競泳の方？	
19B	16	競泳のほう。	
19A	17	すごい（拍手）	ほめ
19B	18	ふふ、有難うございます。	②

→この場合は②（受け入れ）にカウントする

分類例（2） ⑥的確さへの疑問／②感謝・喜び

19C	132	知らなかった、かっこいい。	ほめ
19B	133	ほんとに？／有難う。	⑥／②

→⑥と②、どちらの要素が強いかを判断。この場合は②（受け入れ）にカウントする

2つ目は、ほめられた際の反応を「型（パターン）」で見るとの分類方法である。1つ目と同様ほめに対し1つの反応が返ってきた場合はそのままカウント。ただし、一度に2つの反応、例えば「ほんと？嬉しいなあ」という反応が来た場合は⑥と②にカウントした。

分類例（3） ②感謝・喜び

19B	14	中三までは選手として泳いでた。	
19A	15	えーすごい競泳の方？	
19B	16	競泳のほう。	
19A	17	すごい（拍手）	ほめ
19B	18	ふふ、有難うございます。	②

→先ほどと同様、この場合は②にカウントする

分類例（4） ⑥的確さへの疑問／②感謝・喜び

19C	132	知らなかった、かっこいい。	ほめ
19B	133	ほんとに？／有難う。	⑥／②

→この場合は「⑥②」で一緒にカウントする

また、どちらの分類方法においても、分類の判断が難しかった際は複数の意見をきいて判断した。また、反応は起こした文字と音声をもとに分類したため、後に載せる会話例が文字通りに分類されていない場合がある。「有難う」という一見②にみえる回答でも、音声でおどきの要素が強かった場合は⑧に分類するなど、音声を重視して分類を行ったことを記しておく。

6. 調査結果

調査の資料として使用した会話は、先ほどの調査概要において述べた方法で抽出した。3人以上で会話を行った際、A（ほめる側）、B（ほめられる側）以外の人物においてはC、Dと別のアルファベットで表記した。C、Dに関しては、会話録音の意図（ほめに対する返答をみている）を知っている者もいれば、知らない者も含まれている。しかし、結果としてCやDがBをほめた場合、A同様「ほめる側」として扱い、それに対するBの反応を分類に使用した。

6-1. ほめに対する一度目の反応と、二度ほめの結果

まずは1つ目、ほめに対する一度目の反応と、二度ほめに対する「受け入れ型」の変化の結果を順に提示する。I～IVの結果を出すにおいて、それぞれ3つに分ける

- ・ 1つ目は「ほめに対する一度目の反応（以下一度目と表現する）」
- ・ 2つ目は「二度ほめを行った全ての会話の二度ほめの応え（以下二度ほめ（全体）と表現する）」
- ・ 3つ目は「一度目にほめた際の反応で、「否定」「回避」が出たものの二度ほめの応え（以下、「二度ほめ（否定・回避）」と表現する）」

「一度目」については、これまでの先行研究同様、ほめに対する返答が「受け入れ」「否定」「回避」のどれに当てはまるか、どのくらいの割合なのかについてみていく。二度ほめについては「全体」と「否定・回避」に分けた。「全体」としては、二度ほめを行った全ての会話の「受け入れ」「否定」「回避」の割合がどのように変化するかをみていく。また、今回は特に一度目に「否定」「回避」の反応が出たものをもう一度ほめた際、「受け入れ」の割合はどのように変化するかという部分に重点を置いている為、二度ほめの中から別途「二度ほめ（否定・回避）」を作成した。

6-1-1 ほめに対する一度目の返答と二度ほめ（全体）の結果

まず、ほめに対する一度目の返答だけで考えると、「I：相手の容姿」では26.7%、「II：相手の能力」では35.6%、「III：家族の容姿」では29.4%、「IV：家族の能力」では51%と、ほめの対象が異なっても一定数受け入れの割合はあることが分かった。特に「IV：家族の能力」に関しては半数以上の受け入れ結果が表れる結果となった。

次に一度目と二度ほめ（全体）を比べる。「I：相手の容姿」「II：相手の能力」に関しては二度ほめすると受け入れの割合が増えるが、「III：家族の容姿」「IV：家族の能力」に関しては受け入れの割合が減っている。また、大きく割合が変化したのは「III：家族の容姿」の回避である。その項目以外に大きく割合を増やしたものはなかった。

図 1

	ほめに対する一度目の反応		
11-A61	①		
1-A517	②		①⑨
1-A535	②		
3-A82	②		
20-A97	②		
20-A105	②		
11-A69	④		
9-A273	⑧④		
3-A15	⑤		
4-C100	⑤		⑥
4-C120	⑤		
9-A117	⑤		
12-C129	⑤		⑤
17-A98	⑤		⑤
19-A78	⑤		②
20-A130	⑤⑫		
9-A307	⑥		
15-A15	⑥		④⑨
15-A19	⑥		②
1-A539	⑧		⑧
6-A79	⑧		⑧
10-A63	⑧		
12-A174	⑧		⑩
12-A424	⑤⑧		
17-A88	②⑧		⑧
6-A124	⑩		
1-A523	⑬		⑧
9-A165	⑬		②
9-A283	⑬		
14-A250	⑬		④

二度ほめ (全体)

二度ほめ (否定・回避)

図2 二度ほめ（全体）

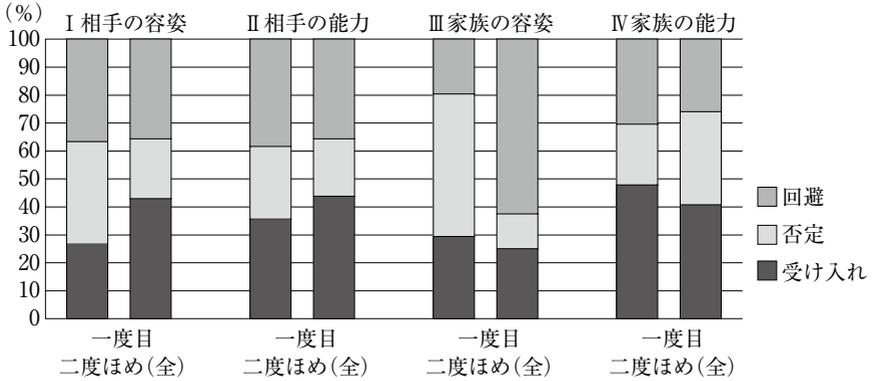
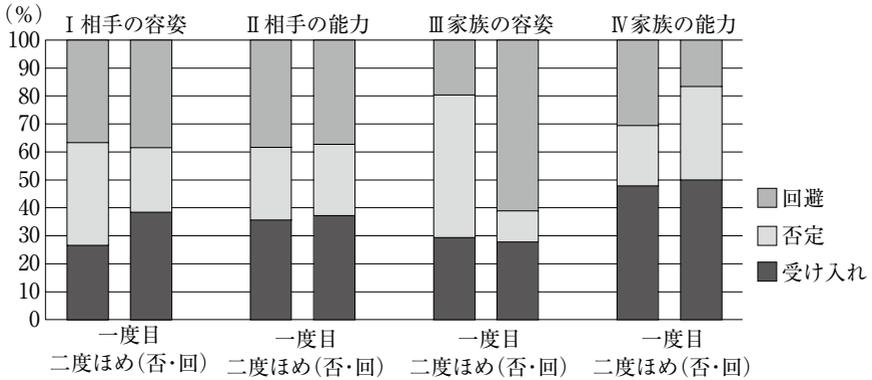


図3 二度ほめ（否定・回避）



6-1-2 ほめに対する一度目の返答と二度ほめ（否定・回避）の結果

次に一度目と二度ほめ（否定・回避）を比べる。こちらは先ほどの二度ほめ（全体）と異なる結果となっている。二度ほめをしたことで受け入れの割合を下げたのは「Ⅲ：家族の容姿」のみとなった。それ以外の3項目に関しては受け入れの割合をあげた。同じ「容姿・雰囲気」でも、対象が自分か自分の家族かでは異なり、家族となると受け入れにくくなることが考えられる。

平田（1999）は、約3分の1の発話がほめ言葉を受け入れ同意したり、感謝や喜びを表す返答をするとしていると先行研究の部分で触れたが、一度目の時点でほぼ先行研究通りの結果となり、また二度ほめすることで受け入れの割合が増える結果となった。これは、佐藤（2002）のほめとその返答のやりとりというターンを超えた単位で分析を行った場合には、受諾の場合が増加するという結果にも全体的にみると適う結果となった。

6-2. 一度目の反応の型（パターン）の結果

次に、ほめに対する返答を型（パターン）でみていく。ほめられた時、「受け入れ」「否定」「回避」が出るわけであるが、ほめられる対象によって同じ「受け入れ」でも返し方はどのように変化しているのかをみる。

表18：Iの返答の例

1-A539	⑧	⑧
6-A79	⑧	⑧
10-A63	⑧	
12-A174	⑧	⑩
12-A424	⑤⑧	
17-A88	②⑧	⑧
6-A124	⑩	
1-A523	⑬	⑧
9-A165	⑬	②
9-A283	⑬	
14-A250	⑬	④

見方としては、例えばこれは実際のIの返答例の一部である。一度目⑧、二度ほめ⑧のパターンが2つ存在している。また、17-A88は一度目②⑧、二度ほめ⑧となっており、先ほどと同じようなパターンとなっている。この場合は17-A88も一度目⑧、二度ほめ⑧とカウントさせた。

6-2-1 I：相手の容姿・雰囲気

一度目だけの反応で見ていくと、受け入れが8件ある中うち5件が「②の感謝・喜び」を含むものとなっている。「うん」「私もそう思う」などの直接受け入れる①よりは、「有難う」という言葉で受け取っていることが分かる。

会話例（1） ②感謝・喜び

20A	97	[20B] は可愛いからいけるけど、[20B] は可愛い、本当可愛い、 [20B] まじで、昨日喋ってた。	ほめ
20B	98	有難うございます。	②

また、否定では11件中8件が「⑤不賛成の発言」を含むものとなっている。回避では11件中6件が「⑧冗談・おどけ・照れ・発言の繰り返し」を含むものが占めている。6件中2つは同一人物のものであったが、それでも5人が⑧を含んで返している。自身の容姿をほめら

れた際、冗談やおどけを含ませることで「照れ隠し」の効果を生んでいるのだろうか。

会話例（２） ⑧冗談・おどけ

1A	524	かっこいいんじゃない？	ほめ
1B	525	かっこいいんじゃない？いいんじゃない？	⑧
1A	526	(笑い)	
1B	527	かっこいいんじゃない？(笑い)。	⑧

会話例（３） ②感謝・喜び／⑧冗談・おどけ

12A	424	いや、美人が生まれたね。	ほめ
12B	425	やめて！やめて！／お小遣いあげるよ！	⑤／⑧

6-2-2 II：相手の能力・態度

一度目だけの反応を見ると、受け入れは52件あるうち、34件が「①賛同の発言・態度」で、先ほどのI（相手の容姿・雰囲気）とは異なった結果となった。「有難う」などというよりは、直接的に受け入れる傾向があるといえる。

会話例（４） ①賛同の発言・態度

7A	31	あれ、なんか、あれでしょ、犬作ってたよね？犬だっけ、リスだっけ、猫だっけ？なんか。	
7B	32	それ多分兎だね。	
7A	33	あ、兎だ(笑い)。	
7B	34	(笑い)。	
7A	35	あれ凄かった。	ほめ
7B	36	そうだね。	①

否定では38件中30件が「⑤不賛成の発言」を含むものとなり、こちらはI（相手の容姿・雰囲気）と同じ結果となった。回避では56件中21件が「⑨情動的コメント・説明」を含むものとなり、Iで多く見られた「⑧冗談・おどけ」を含むものは9件にとどまった。

これに加え、一度目だけで5件と最も多く確認できたパターンが「①賛同の発言・態度／⑨情動的コメント」というパターンとなった。

会話例（５） ①賛同の発言・態度／⑨情動的コメント・説明

10A	19	なんか、[10B]は、なんか、茶化さないで真面目に聞いてくれるからね。	ほめ
10B	20	うん、／上と下の間に入るの好きだから。	①／⑨

6-2-3 Ⅲ：相手の家族の容姿・雰囲気

一度目だけの反応を見ると、受け入れは15件のうち10件が「①賛同の発言・態度」を含むもので、「Ⅱ：相手の能力」と同じ結果となった。否定では26件中14件が「⑤不賛成の発言」、10件が「⑥的確さへの疑問」を含むものとなった。Ⅰ・Ⅱとは異なり、⑥が大きく食い込む形となった。

会話例（6） ⑤不賛成の発言

5A	249	いいね、いいね、いいな、お父さん若い！	ほめ
5B	250	いやいやいやいや。	⑤

会話例（7） ⑥的確さへの疑問

4B	274	これお父さん、こんな顔してるけど。	
4A	275	お父さん、お父さんも優しそう。	ほめ
4B	276	ええ、そうかなあ（笑い）。	⑥

回避では大きく割合を占めるものはなかったが、10件中「⑧冗談・おどけ」が3件、「⑨情動的コメント・説明」が4件となった。

会話例（8） ⑧冗談・おどけ

14A	280	お母さんいいなー、可愛いね、お母さん。	ほめ
14B	281	お母さん。	⑧

会話例（9） ⑨情動的コメント・説明

17A	71	若いね、可愛いね、お母さん。	ほめ
17B	72	あのこれは、二人でバス逃しちゃって、あの二人で反省の顔の写真なの、それは。	⑨

6-2-4 Ⅳ：相手の家族の能力・態度

一度目だけの反応を見ると、受け入れは44件のうち38件が「①賛同の発言・態度」を含むものとなり、「Ⅱ：相手の能力」「Ⅲ：相手の家族の容姿」と同じ結果となった。否定では20件中16件が「⑤不賛成の発言」を含むものとなった。回避では28件中19件が「⑨情動的コメント・説明」を含むものとなり、Ⅱと同じ結果となった。

これに加え、一度目だけでは13件と最も多く確認できたパターンがⅡと同じく「①⑨」というパターンとなった。

会話例 (10) ①賛同の発言・態度／⑨情報的コメント・説明

8A	159	お父さん凄いね。	ほめ
8B	160	そう、／お父さん、なんかね、いや、小っちゃい頃そうは思わなかった(うん)、電車が好きだから、その会社に入ったってことだけ聞いてたから(あー)、でも、自分が就活をするっていうことになったときに、なんてあの会社は凄い会社なんだって。	①／⑨

Ⅱ・Ⅳは「相手」と「相手の家族」と人物は異なるが、対象の「能力・態度」というものは共通している。比較的一度目の時点から受け入れが高かった2項目であるが、「⑨情報的コメント・説明」をつけることによって、受け入れている状況を弱めているのではないだろうか。

6-3. 二度ほめしたときの型(パターン)

6-3-1 I: 相手の容姿・雰囲気

二度ほめした14件をパターンで分けると11パターンみつかった。そのうち、3件あてはまったパターンが「一度目⑧・二度ほめ⑧」であった。

会話例 (11) ⑧冗談・おどけ

6A	79	かわいい、[6B] (笑い)。	ほめ
6B	80	恥ずかしい。	⑧
6A	81	ほんと可愛い、ね、可愛いほんと [6B] の笑顔好き (笑い)。	ほめ
6B	82	恥ずかしいー、照れるー、照れるー (笑い)。	⑧

6-3-2 II: 相手の能力・態度

二度ほめした全64件のうち、大きく分けて32パターンが見つかり、6件あてはまったパターンが「一度目⑤・二度ほめ⑤」、4件ずつあてはまったパターンが、「一度目①・二度ほめ①」「一度目⑤・二度ほめ⑧」の2パターンとなった。

会話例 (12) 一度目⑤ (不賛成の発言)・二度ほめ⑤

5A	43	[5B] が、その、自分で貯めるし、携帯代とかも自分で出してるじゃん。	
5B	44	うん。	
5A	45	それが凄い偉いなって思う。	ほめ
5B	46	いや、いやいやいやいや (笑い)。	⑤
5A	47	私はほら、携帯代は、なんていうか結局最終的には自分の口座からだけど、今は親が立て替え (うんうん) してくれてるから、ね、偉いね。	ほめ
5B	48	いやいやいやいやいやいや。	⑤

会話例 (13) 一度目① (賛同の発言・態度)・二度ほめ①

9A	95	わり、わりとそこすげえなって思っ。	ほめ
9B	96	うん、そうだね、なんか、よくしてもらえるね、年上の人に。	①
9A	97	いいことじゃん、凄いとおもう。	ほめ
9B	98	そうだね。	①

会話例 (14) 一度目⑤ (不賛成の発言)・二度ほめ⑧ (冗談・おどけ)

12A	428	可愛い、び、可愛くて (適当な) 性格可愛い、のくせしっかりしてよね。	ほめ
12B	429	いやいやいやいやいや。	⑤
12A	430	[12B] ほんとちゃんとしてるから。	ほめ
12B	431	いやいやいやいや／きゃーもうお小遣いやるよ!	⑤/⑧

6-3-3 Ⅲ：相手の家族の容姿・雰囲気

二度ほめした全24件のうち、大きく分けて18パターン見つかり、そのうち5件あてはまったパターンが「一度目⑥・二度ほめ⑨」であった。

会話例 (15) 一度目⑥ (的確さへの疑問)・二度ほめ⑨ (情動的コメント・説明)

4A	265	うんそれ思った、美人さ、美人だと思う。	ほめ
4B	266	えほんと？	⑥
4A	267	うん、お母さん可愛い。	ほめ
4B	268	なんか、んーだれか助けてーみたいなんちちょっと。	⑨

6-3-4 Ⅳ：相手の家族の能力・態度

二度ほめした全27件のうち、大きく分けて14パターン見つかり、5件あてはまったパターンが「一度目⑨・二度ほめ①」、4件ずつあてはまったパターンが「一度目⑤・二度ほめ⑤」であった。

会話例 (16) 一度目⑨ (情動的コメント・説明)・二度ほめ① (賛同の発言・態度)

1A	156	歯医者さん？	
1B	157	歯医者、歯医者、うん。	
1A	158	すご。	ほめ
1B	159	父親と、母親と二人とも。	⑨
1A	160	え、すご。	ほめ
1B	161	うん。	①

会話例 (17) 一度目⑤ (不賛成の発言)・二度ほめ⑤

12A	322	凄いな (いやいやいやいや)、だからお父さんお母さんがいいんだよ。	ほめ
12B	323	破天荒なんだよ。	⑤
12A	324	いやいやいや。	ほめ
12B	325	適当なんだよ我が家。	⑤

6-3-5 型 (パターン) の結果

型 (パターン) でほめに対する返答をみると、対象が異なると型も変わってくるのが分かる。同じ受け入れでも、「I：相手の容姿」では「②感謝・喜び」が多く、それ以外の項目だと「①賛同の発言・態度」がほぼ占めているという結果となった。自分の容姿に関わると、直接的に受けられるよりは感謝で受け入れる傾向があると考えられる。

否定は元々3項目しかないが、その中で「⑤不賛成の発言」が全体的に使用されていた。回避では「⑨情報的コメント」が多く、また⑨に関しては①と一緒に出現することが多い結果となった。

会話例 (18) ①賛同の発言・態度／⑨情報的コメント・説明

17A	231	(お母さんの) 特技は？	
17B	232	特技は一、あ、陸上やってて (すごいね) 駅伝、で、あの箱根駅伝？新聞とかにも載ってた。	
17A	233	お母さん？	
17B	234	そうそうそう。	
17A	235	すごいね。	ほめ
17B	236	うん、凄い、／走るの好きみたい。	①／⑨

こちらも先ほどの6-2-4同様、受け入れつつも「好きだから」などの理由を付け加える事で受け入れている状況を少し弱めているのではと考えられる。

二度ほめを含めたパターンで考えると、様々なパターンが出たが、「II：相手の能力」と「IV：家族の能力」ではいずれも「一度目⑤・二度ほめ⑤」のパターンが多く確認された。どちらも一度目から受け入れの割合が多かった「能力・態度」が対象となっており、対象がこの場合一度目に「⑤不賛成の発言」がくると、二度ほめしても再び⑤の否定の形になることが多い事が考えられる。

7. 考察

今回はこれまでの先行研究とは異なり、関係性を「同等」親密な関係に限り、また対象も「相手の容姿・雰囲気」「相手の能力・態度」「相手の家族の容姿・雰囲気」「相手の家

族の能力・態度」に絞って調査を行った。同じ条件下で調査を行うことで、結果を分かりやすく示せたのではないかと思う。

さて、今回のほめの中でも「相手の容姿」より「相手の能力」で受け入れの割合が増えた。それは、「容姿」より「能力」の方が努力次第で変わるため、受け入れやすいのではないかと考えた。

次に、意外な結果となった家族に関するほめでは、対象は同じ家族であったが「家族の容姿」は否定の割合が高く、「家族の能力」は受け入れの割合が高いという結果がでた。まず「家族の容姿」であるが、どんなに親しい仲でも家族を話題にすることは少なく、ほめられてもどんな返答をすればいいかわからないため、結果これまでの謙遜が入る返答になったのではないだろうかと考えた。実際に協力者から「家族の容姿に触れられる機会が少ないからなんて答えたらいいか分からない」という声もあり、ほめられ慣れてないことから受け入れにくかったのではと考える。そして大きく予想を裏切った「家族の能力」であるが、こちらは「家族の容姿」だけでなく、ほかの2項目と比べても受け入れの割合が高かったのが目立った。今回の調査では、「家族の能力」をほめる際、「親の職業」をほめる事が多かった。

会話例 (19) 両親が歯医者であることをほめている会話例

1A	174	え、お母さん凄いな。	ほめ
1A	175	お父さんもお母さんも凄いな。	ほめ
1B	176	うん、凄いですよ。	①

会話例 (20) お父さんが大企業に勤めていることをほめている会話例

7B	215	なんで [会社名 A] いったか知らないけど。	
7A	216	[会社名 A] なの!?	
7B	217	そう。	
7A	218	凄いな!	ほめ
7B	219	(頷く)	①

これに関しては、今回協力者だった者が、就職活動を行っていたり、既に働いていたし、「親の勤めている企業・仕事の凄さ」を実感していることで、受け入れやすかったのではないかと考える。また、協力者のご両親の勤めている会社が、所謂大企業とよばれるところが多く、「世間で言われている大企業を、凄くないと否定する方が嫌味っぽく聞こえてしまう」という声も多数あった。それ故、他の3項目より受け入れの割合が増えたのではないかと考える。

古くから「謙虚である事が良い」と言われる日本であるが、同等かつ親密な関係に絞った今日のほめの返答をみると、受け入れ型は一定数現れ、一概に「日本人はほめられても否定する」といえないことが改めて分かった。今日の若者のコミュニケーションは、否定して「自

分を下に」というよりは、受け入れて「相手を尊重」という気持ちが強いように思われる。実際、調査の協力者に聞くと、「そんなことない、と否定してしまうと、相手自身を否定するような気持ちになってしまう」という声が聞かれた。その為、ほめられた際に一定数の「受け入れ」が出現したのではないかと考える。

今回は同等かつ親密な関係に限ることによって現代の大学生の返答の傾向を見る事ができた。今回行えなかった他の年代での調査などに関しては、今後の研究課題としたい。

参考文献・論文

- ・糸井江美（1999）「ほめ言葉への応答：学生と中高年の世代差」『文教大学紀要』文教大学
- ・大野敬代（2005）「「ほめ」の意図と目上の応答について—シナリオ談話におけるコミュニケーションとしての調査から—」『社会言語科学』第七巻 二号
- ・叶永会（2014）「先行研究における「ほめ」の扱いについて」『言語と文明』12巻、麗澤大学大学院言語教育研究科
- ・佐藤響子（2002）「ほめに対する好まれる返答形式にかんする一考察：「ホント？ありがとう」」横浜市立大学紀要人文科学系列 9号
- ・田辺洋二（1996）「ほめことばの日・英比較『日本語学』明治書院
- ・筒井佐代（2012）『雑談の構造分析』くろしお出版
- ・寺尾留美（1996）「ほめ言葉への返答スタイル」『日本語学』明治書院
- ・平田真美（1999）「ほめ言葉への返答」『横浜国立大学留学生センター紀要』6巻、横浜国立大学留学生センター
- ・ポリリー・ザトラウスキー（1993）『日本語の談話の構造分析 勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版
- ・丸山明代（1996）「男と女とほめ—大学キャンパスにおけるほめ行動の社会言語学的分析—」『日本語学』15. 明治書院